

1月

のランチカレンダー（予定）



～芽室町図書館喫茶コーナー～

らい
カフェ来★ぶら～り

2026

月	火	水	木	金	土	日
<div> <div>営業日 月・水・木・土</div> <div>営業時間 11:00～15:00</div> </div> <div>トースト・ピザトースト（毎回あります） クッキー（毎回あります） シフォンケーキ（木曜・土曜にあります） ※月曜・水曜も各種手作りお菓子あります</div>						4
5 休業日	6	7 ハヤシライス	8 ミニおせち （お汁粉つき） 500円	9 特別メニュー	10 ピザトースト トースト スープ	1
12（祝） 休業日	13	14 炊き込みご飯 ランチ	15 道産小麦の 焼うどん	16	17 手作りパン スープ	18
19 手作りカレー	20	21 ピザトースト トースト スープ	22 おにぎり ランチ	23	24 ピザトースト トースト スープ	25
26 ちらし寿司 ランチ	27	28 ピザトースト トースト スープ	29 道産小麦の 焼うどん	30 休館日	31 十勝まるごとピザ スープ	

7日から営業します。8日はミニおせち（お汁粉つき）をご用意しておりますのでご利用くださいませ。（ご予約をおすすめします！）



★印のメニューは、数量限定！
カウンターやお電話でご予約もお受けします

＜日替りランチメニュー＞

- ★おにぎりランチ（おみそ汁付）・・・600円
 - ★ちらし寿司ランチ・・・・・・・・・・600円
 - ★炊き込みご飯ランチ・・・・・・・・・・600円
 - ★道産小麦の焼うどん（小鉢付）・・・600円
 - ★手作りカレー（ピクルス付）・・・600円
 - ★ハヤシライス・・・・・・・・・・600円
- （★印の食後のコーヒーは150円です）

＜飲みものメニュー＞

- オリジナルブレンドコーヒー・・・・250円
- 果汁100%ジュース・・・・・・・・各150円
（アップル・オレンジ・グレープ）
- カルピス・・・・・・・・・・150円
- ごぼう茶・・・・・・・・・・150円

＜軽食メニュー＞

- ピザトースト・・・・・・・・・・350円
- トースト（バター・ジャム付）・・・250円
- クッキー、シフォンケーキ・・・各130円
- 手作りお菓子・・・・・・・・・・150円
- 十勝まるごとピザ（月1回）・・・・450円
- 手作りパン（月1回）・・・・1個/130円
- スープ（月数回）・・・・・・・・1杯/150円

らい
来★ぶら～り TEL 090-1521-5205

（お会計はご注文の際にお願い致します）

会議などにご利用頂けるポットでのコーヒーもご用意できます！



カフェ来★ぶら〜り通信

文責：嶋野奈津美

【老眼ははじめました】

おや？と思い始めたのは、左の肩のあたりに付けるブローチの針が見えなくなった、今年の暑い夏のころ。

これがもしや多くの先輩たちが、紙に書かれた文字を遠ざける行為で表現する「老眼」というやつでは？

それから半年くらいはブローチを付けるのにやや苦勞するくらいで済んでいたのですが、この1か月ほど、手元で見る文字が見えづらくなっていることに気づき始めました。

やはりこれが「老眼」なのか。

長男が自動車学校に入校するにあたり、役場で住民票を取る必要があると分かった時、私は「ついにあの老眼鏡を試すことができる！」と心おどりました。

「あの老眼鏡」とは、役場などの窓口に置いてある老眼鏡のことで、20代の頃からずっと気にかけていたものです。

無料で使える眼鏡を置いてくれているなんて、とても親切だと感じていました。しかも、「弱・中・強」とセレクトできることも、お心遣いが行き届いています。

「誰しものがいつかは訪れる老眼。そのときには、誰しものが窓口のあのメガネを使うことができる」カラフルな3色のメガネを心に浮かべながら、これまで年を重ねてきました。

実は、老眼の疑いが生じてから100円均一のお店で販売されている老眼鏡を試したことがありました。ですが、全体がぼやけて見えてしまい、「自分が老眼であること」の診断を得るには至りませんでした。

やはり、老眼初心者は、おそらく100円では買えない窓口老眼鏡でなければダメなのだと、

推察したわけです。

そんなわけで、いよいよ、あのカラフルメガネを試す時がやってきたというわけです。

役場を訪れ、真っ先に老眼鏡のある窓口に向かうとした私でしたが、「まずは総合案内で」と、私の隠し持った目的を知ってか知らずか、お姉さんから制止されました。

そして総合案内の方も「マイナンバーカードがあれば（だったかな？）手数料もお安くこの機械で発行できます」と勧めてきました。

機械のそばに老眼鏡は見当たりません。マイナンバーカードは持っていましたし、職員の方のお手を煩わせてしまうことは申し訳ないと思いつつ「窓口をお願いします」と即答しました。

そして、窓口のいつもの位置にカラフルなメガネが置いてあることをチラリと確認しつつ、いかにも住民票が欲しくて来たというような顔をして、手続きを進めました。

お姉さんの「それでは、少しお待ちください」という言葉が合図となって、私は「今だ！」とメガネの物色を始めました。

まずは「弱」から。
ふむ！やはり見えやすい…。だがしかし、劇的に手元の視界が変わるという感じでもない…。

いやまてよ、「中」はどうだろう？もしかしたらすでに「中メガネ」の可能性も。ううむ！
「中メガネ」！たぶんこれは強すぎる。全体がぼやける感じ…。
ふむ、「強メガネ」は試すまでもないだろう。

など思考を巡らせていたところで、「お待ちせしました」という声で我に返る。

このお姉さんに老眼の相談をすることは業務外だと心得ていた私はさっさと席を立ち帰りました。

やっぱり老眼の相談はカフェの先輩にするのが一番ですね。

ちなみに、私は性別問わず「メガネをかけている人」が好ですが、夫ジョージは未だに視力1.5。老眼の兆しもまだないそうです。
皆さんの老眼話、ぜひ聞かせてください！